



Yamagata University

Annual Report 2020

【2019事業年度 事業と財務に関するレポート】

ごあいさつ

この「Annual Report」では、山形大学の活動状況を広く国民の皆様にお伝えすることを目的として、2019年度に実施した事業や財務状況の概要をご紹介します。

山形大学は、人文社会科学部・地域教育文化学部・理学部・医学部・工学部・農学部の6学部と7つの大学院研究科を備え、約9,000人の学生が勉学に励む、東日本でも有数規模の総合国立大学です。昭和24年（1949年）の創設以来、9万人を超える多くの有為な人材を社会に送り出して参りました。これもひとえに地域の皆様をはじめ多くの方々のご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

現代社会が直面する少子高齢化、人口減少、グローバル化などの諸課題を解決し、Society 5.0を実現するイノベーションを生み出すために、国立大学が果たす役割はますます重要となっております。山形大学は、社会からの期待に応えるべく、「地域創生」「次世代形成」「多文化共生」の3つの使命を掲げ、学生教育を中心とする大学創り、豊かな人間性と高い専門性の育成、「知」の創造、地域創生及び国際社会との連携、不断の自己改革という5つの基本理念のもとで、教育、研究及び地域貢献に全力で取り組んでいます。本レポートではこれらの活動における特徴的取組をご報告しております。

国立大学の財源の一つである国からの運営費交付金は年々減少傾向にあり、大学の自助努力による多様な財源の確保と財務体質の強化が求められています。本レポートでは2019年度の財務諸表をもとに本学の財務状況をご説明しております。

新型コロナウイルスの感染防止のために、2019年度の学位授与式は一斉開催を中止することとなりましたが、1,764名の卒業生・修了生を無事世に送り出すことができました。Withコロナの社会で新たな「大学の学び」を確立するために、学生と教職員が一丸となって努力してまいりますので、これからも山形大学への御支援と御協力を賜りますように心よりお願い申し上げます。



山形大学長 玉手 英利



〈山形大学各キャンパスの感染症対策(一例)〉

山形県内の感染状況を見ながら、オンライン学習環境支援のための教室開放や、卒業研究・資格取得のための研究・教育活動に限定して実施しています。現時点での、本学キャンパスの感染症対策の一例をご紹介します。



▲間隔確保のため一部席を閉鎖



▲対面の席にはビニール設置



▲フェイスシールドも活用



▲医学部附属病院入口での検温実施(サーモグラフィを使用)

〈コロナ対応〉

山形大学は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に関連する対応を本学ホームページにまとめています。

詳しくは、「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に関するお知らせ」をご覧ください。

<https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/information/important/covid19/>



〈SDGs〉

山形大学は、これまでも社会の持続可能な発展の在り方を探求し、社会の多くの皆様とともに、その実現に向け活動してきました。

今後は国連によるSDGsの枠組みを最大限に活用して、それらの活動を一層加速させることとし、その姿勢を「empower!」(エンパワー:力づける、力を与える)という言葉に込め、次の取組を行っていきます。

- 山形大学は、社会の持続可能な発展に向けた地域の取組を積極的にempower!します。
- 山形大学は、すべての活動の推進をSDGsの枠組みによりempower!します。



CONTENTS

- 01 ● ごあいさつ
- 03 ● 山形大学の3つの使命・5つの基本理念
- 04 ● 運営体制(ガバナンス体制)大学の行動計画
- 05 ● 全学事業報告
- 10 ● 山形大学基金への寄附のご案内
- 11 ● キャンパストピックス
- 13 ● ファイナンシャルハイライト
- 14 ● 財務データ



山形大学の3つの使命 —— 社会における役割・存在意義

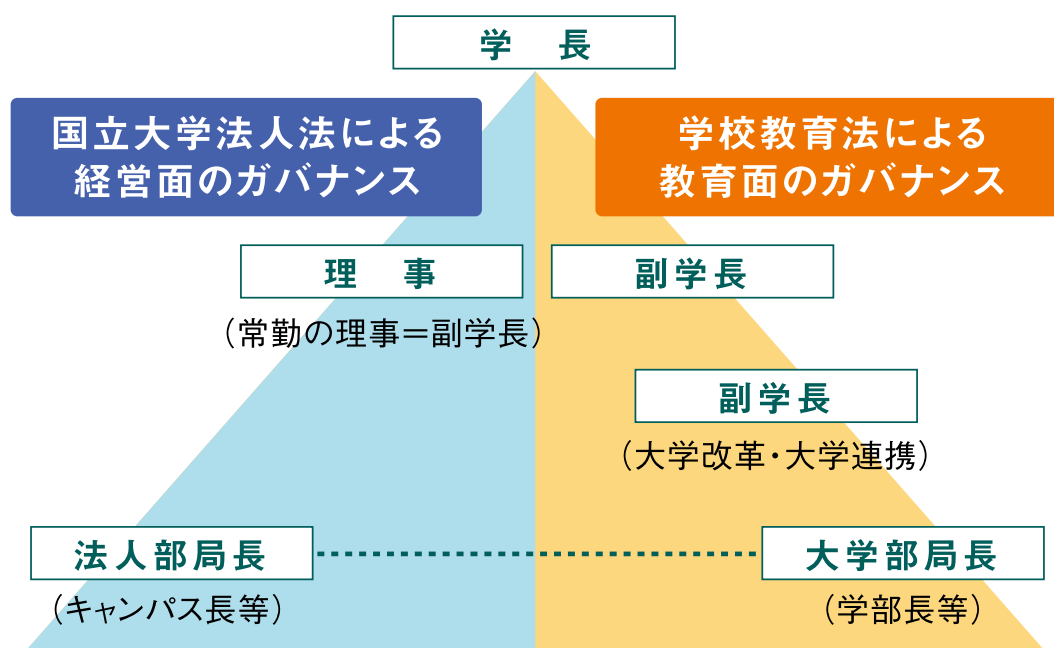


5つの基本理念 —— 組織のあるべき姿

山形大学は「自然と人間の共生」をテーマとして、次の5つの基本理念に沿って、教育・研究及び地域貢献に全力で取り組み、国際化に対応しながら、地域変革のエンジンとしてキラリと光る存在感のある大学を目指しています。

- 1 学生教育を中心とする大学創り
- 2 豊かな人間性と高い専門性の育成
- 3 「知」の創造
- 4 地域創生及び国際社会との連携
- 5 不断の自己改革

山形大学のガバナンス体制 (H28～)



▲法人部局長の設置による教学と経営に係る責任の明確化

2019年度大学の行動計画

①教育

- 学士課程基盤教育機構を中心に、3年次の新たな基盤力テストを実施
- 基盤力テストの課題抽出とその対応により、基盤力テストの完成度の向上
- 大学院基盤教育機構を中心とした大学院教育改革（基盤専門（共通）科目の更なる充実）（設置構想中の新研究科新専攻の連携教育・研究のための迅速な準備）

②研究

- 各キャンパス理事特別補佐（研究ディレクター、研究支援）等と連携し、大型（1千万円以上）の科学研究費等の競争的資金への応募数15%増（前年度比）

③国際交流

- 3カ国に新たな海外同窓会の立ち上げ
- 受入留学生300名程度及び学生大使等の海外派遣留学生数を400名程度に増加
- 学生・教職員・地域の国際化を図るため、「山形大学国際化のためのアクションプラン2018-2020」を7割以上達成

④社会連携

- 「山形大学基金」の拡充を図り、社会連携事業等の更なる充実に繋げ、本学の持続的に発展するための基盤を構築
- 産学官連携推進本部及びオープンイノベーション推進本部の更なる組織強化を図り、民間企業との共同研究受入額15億円の達成

⑤病院

- ゲノム解析に基づくオーダーメイド医療の推進
- 重粒子線治療の開始に向け、装置の各種性能確認を行い、施設の運用管理及び診療体制整備の構築

教 育

全学での共通テストである「基盤力テスト」を2017年度入学生から実施しています。2019年度には、新たに学生の文章理解・論述能力を測定するための語彙力に関するテストを導入するとともに、3年次における基盤力テストを初めて実施しました。3年次の基盤力テストの実施により、1・2年次の学修成果を測り、学生の学びの状況を把握し、その結果を授業改善にも活かしています（基盤力テスト受験者：4,852名）。

大学院については、2021年度の大学院改組を見据え、文理横断教育を実施して知の総合的な推進力を育成するため、2019年度に9科目開講としていた大学院共通科目を、2021年度から基礎専門科目として12科目開講（選択必修2単位）に拡充することとしました。また、必修科目とする基盤教育科目「地域創生・次世代形成・多文化共生論」の共通教材・テキスト等は日本語版・英語版・スペイン語版を作成し、科目名にある3つの課題について考えることで豊かな人間力を涵養するプログラムを構築しました。

2019年度事業費：5百万円

学 生 支 援

神奈川大学と締結した協定に基づき、多様性理解と俯瞰的視点を持った未来人材の育成及び山形県の魅力を発信し、若者の県内定着を目指すプログラムを開始しました。本プログラムは地方と東京圏、国立と私立という異なる視点での教育、学生交流を通じて、地域が抱える課題理解・解決能力育成と新たな価値観を創出します。

初年度は、港湾都市である横浜の発展を海から見て学ぶ「海の体験学習」、山形県最上地域の里山と人の生活を学ぶ「共生の森 もがみ」、山形県企業でのインターンシップ等のプログラムに両大学合わせて23名の学生がそれぞれの大学で学びました。参加した学生は1つの大学では学ぶことができない経験と学生同士の繋がりを作り、充実した体験をすることができました。

2019年度事業費：10百万円

山形大学独自の奨学金

YU Do Best 奨学金

優秀な学生に、存分に勉学に励み、そして安心して生活できる教育・研究環境を提供するため、選考により奨学金を支給します。

月 額	サポート期間・対象	人数
30,000円	2年間・学部3年生、4年生 (医学部医学科は5年生、6年生)	10人程度

山形大学山澤進奨学金

公益財団法人ヤマザワ教育振興基金 代表理事・山澤進様から、山形大学の発展と地域振興のために役立ててほしいと寄せられた奨学金を基に創設した奨学資金です。学業が優秀かつ経済的理由により山形大学への進学が困難な方で、卒業後、山形県の地域振興に貢献してくださる方を、選考により奨学生として採用します。

月 額	サポート期間	人数
50,000円	4年間 (医学部医学科は6年間)	最大6人

※入学科及び授業料を免除。

山形大学エリアキャンパスもがみ 土田秀也奨学金

最上地区新庄市で「土田医院」を開業されている土田秀也様から、最上地区の高等学校等出身者のための奨学金設立の申し出をいただき、「山形大学エリアキャンパスもがみ土田秀也奨学金」を設立しました。学業が優秀かつ経済的理由により山形大学への進学が困難な方で、山形県最上地区の発展に強い意欲を有する、最上地区の高等学校等を卒業または卒業見込みの方を、選考により奨学生として採用します。

月 額	サポート期間	人数
40,000円	4年間 (医学部医学科は6年間)	1人

※入学科及び授業料を免除。

山形大学修学支援事業学生支援奨学金

経済的理由により、一時的に授業料等の支払いが困難になった学生に対し、申請により、30万円を上限として、貸出しを行う奨学金制度があります。

詳しくは本学ホームページでご確認ください

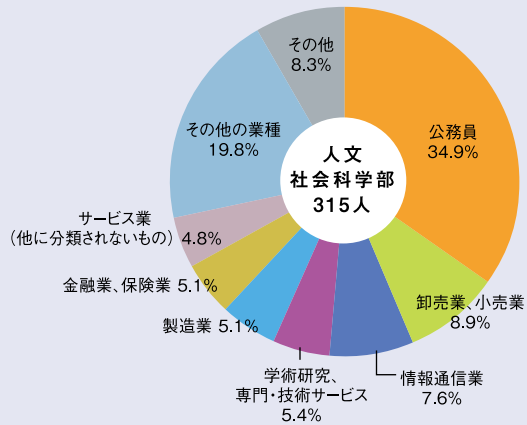
<https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/life/fee/scholarship/>



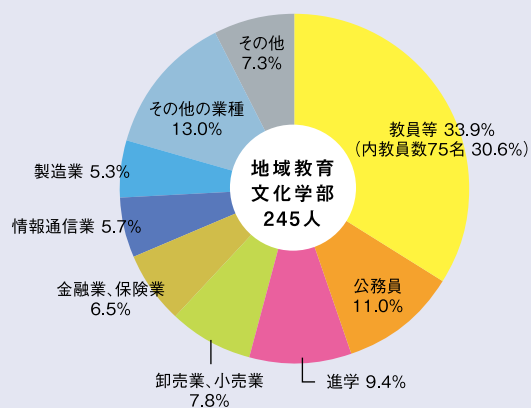
2019年度 進路状況

高い就職率(99.6%)を維持しています

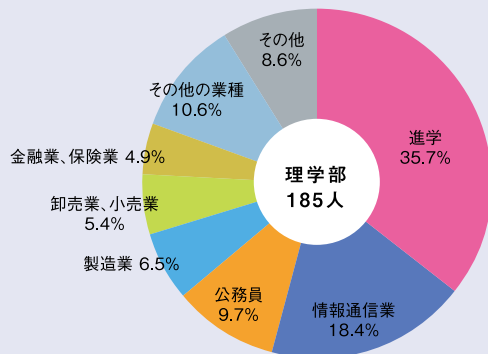
人文学部(現 人文社会科学部)



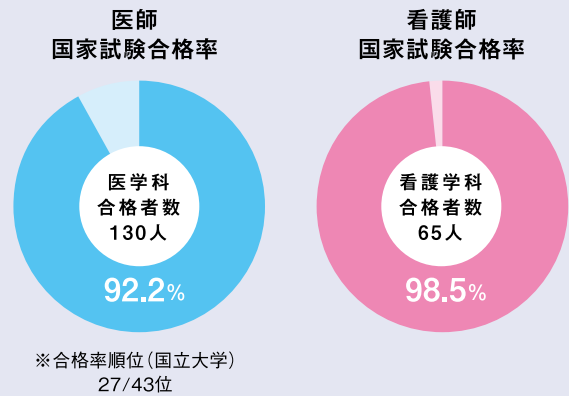
地域教育文化学部



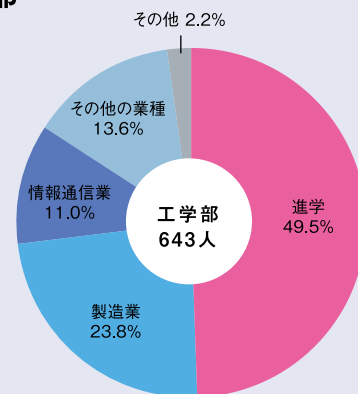
理学部



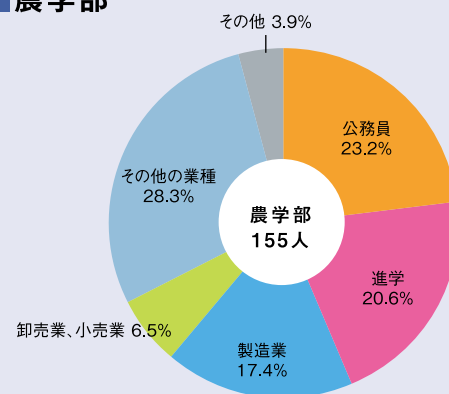
医学部



工学部



農学部



※その他…海外研修、留学、資格試験再受験等

主な就職先など、詳しくは本学ホームページでご確認ください

<https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/employment/information/situation/>



卒業生の活躍の
様子はコチラ

山大に集うひととつながるウエブマガジン。 **ひととひと**



総合的學生支援(EM)と大学機関研究(IR)

総合的學生支援(EM※)

山形大学では、高校生のみなさんが本学の教育・研究に触れ、本学を身近に感じていただくことで進路選択の一助となるよう、各キャンパスへの訪問受入れ(69団体、3,740名)と、本学教員が高校等に出向き講義を行う「出張講義」(131校)を実施しました。

また、キャンパスごとのオープンキャンパスでは、7,283名の高校生や保護者の方が大学を訪問され、各キャンパスに特化した様々な催しを体験されました。

さらに、入試広報担当の教職員による高校訪問では、東北地区や北関東をはじめ全国421校の高校を訪問し、進路担当教員との面談を積極的に実施いたしました。



オープンキャンパス2019の様子

2019年度事業費:14百万円

※EM(Enrollment Management:エンロールメント・マネジメント)

大学調査によって支えられ、戦略的なプランニングによって組織され、学生の大学選択、大学入学、在学中の教育サービス、休学・退学の減少、(卒業後も含めた)学生の将来などに関わる支援諸活動を総合的にマネジメントすること。

大学機関研究(IR※)

出欠管理システムの情報や基盤力テストの分析結果などを活用し、学生の態度・習慣や傾向においてリスク因子が高い学生に加え、必修科目である「スタートアップセミナー」において連続欠席、かつ課題未提出の学生を早期に抽出しました。この基礎情報を基に、担当教員が個別に面談や履修指導を行うなどした結果、対象学生の当該科目における出欠または課題提出に関連した学修態度の改善が見られ、対象学生全員が単位を修得しました。こうした取組は、平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果において「注目される事項」として取り上げられたほか、令和元年度に受審した「大学機関別認証評価」においても、特徴的な取組として評価されました。

※IR(Institutional Research:インスティテューショナル・リサーチ)

意思決定支援を目的とした山形大学に関する調査及び山形大学データの収集・蓄積・分析。学内に点在する諸データを集め、統合・分析し、可視化することで、効果のある改善策立案に寄与し、施策実施後の評価・検証等を行うことで、戦略的意思決定を支援すること。

研究

ソフトマテリアルマニュファクチャリングの世界的な研究拠点の構築を目的とする、「ソフトマテリアル創製研究拠点」を、YU-COE「山形大学先進的研究拠点」(S)の5件目の研究拠点として認定しました。

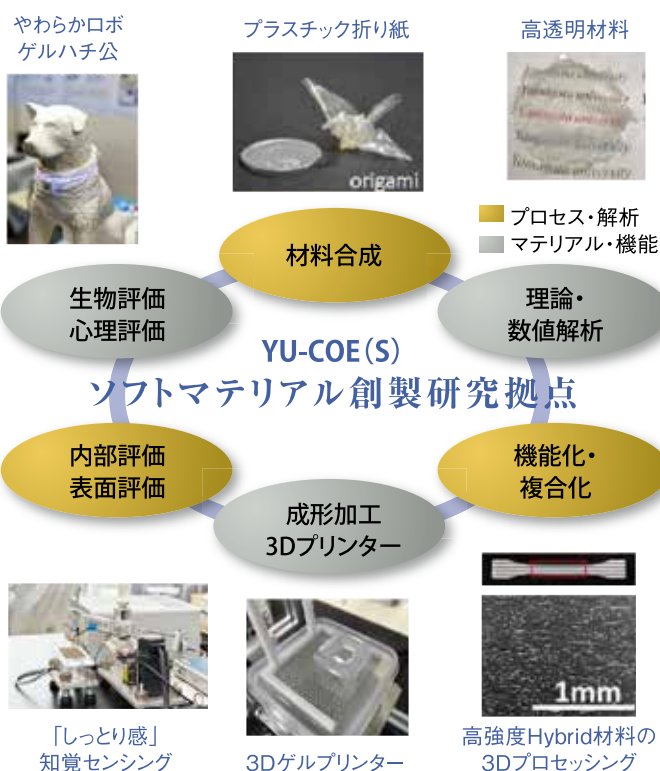
次世代ものづくり産業の創出に貢献することを使命として、①超精密加工、②3Dプリンター、③ヘルスケア材料、④サステナブル材料、⑤リサイクル技術を柱とする5つの研究グループの横断的連携により、ソフト材料・プロセス研究のニッチトップを目指します。

さらに、「ソフト材料」×「プロセス開発」×「AI・デザイン」×「デジタル製造」などの新たな取組みや、教育、研究、地方創生への波及が期待されます。

2019年度事業費:5百万円

※YU-COE「山形大学先進的研究拠点」(S):

1. 総合スピ科学
2. 分子疫学
3. 有機エレクトロニクス
4. 山形大学ナスカ研究所



国際交流

近年、海外派遣学生数と受入留学生数は共に増加傾向にありましたが、2019年度は年度末に新型コロナウイルス感染対策を講じた影響でやや減少に転じ、海外派遣学生数239名、受入留学生数344名の実績となりました。

学生派遣プログラムの主なものとしては、7つの本学海外拠点において派遣学生が日本の言語や文化を紹介する「学生大使派遣プログラム」、大学間交流協定校へ派遣する「短期留学制度」及び山形県内産学官連携により地域で活躍する人材を育む「トビタテ!留学JAPAN地域人材コース」があり、それぞれ、60名、26名、5名の学生が異文化理解を深めました。

さらに、各学部において特徴的なプログラムを数多く展開し、合わせて148名の学生を派遣しました。

2019年度事業費:1億円

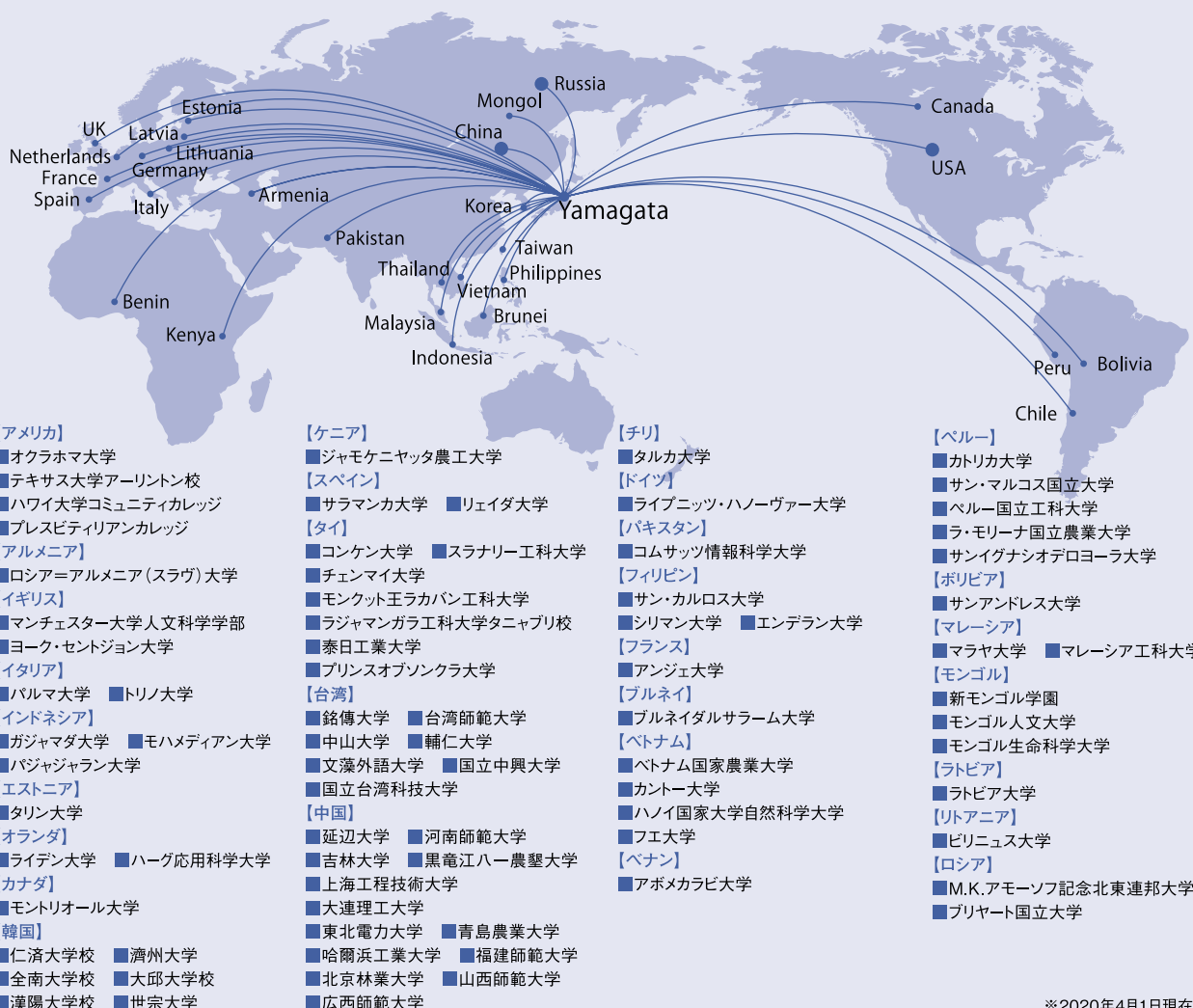


インドネシアでの日本語授業風景(学生大使)



海外インターンシップ先でのASEANイベントに浴衣を着て参加
(トビタテ!留学JAPAN「地域人材コース」)

短期交換留学が可能な海外協定校(大学間学術交流協定)



社会連携

2019年度、本学の共同研究受入金額は947百万円となり、2018年度の受入金額と比較して127百万円伸長しました。その要因として、2018年度に設置したオープンイノベーション推進本部が、競争領域における共同研究の実績を拡大させたことが起因します。同本部の主要な実績として、50百万円以上の大型共同研究プロジェクトの受入や、山形大学インクジェットコンソーシアム、やわらか3D共創コンソーシアムをはじめとするコンソーシアム型共同研究の受入金額が伸長したこと等が挙げられます。オープンイノベーション推進本部の取組により、今後の更なる共同研究受入金額の増が期待出来ます。

広報

本学創立70周年記念動画や教員紹介動画など33本を制作したほか、ブランドキーワード“ひと”に関連するコンテンツをWEBマガジン「ひととひと」に連携させることで、厚みのある情報発信を展開しました。学長定例会見での発表・通知を軸としたプレスリリースは、332件のうち62%が報道され、魅力ある教育研究活動のPRにつながりました。

2019年度事業費:2百万円



医療

2019年9月に附属病院は厚生労働省から「がんゲノム医療拠点病院」に指定されました。この指定により、これまで中核拠点病院（東北大学病院）に依頼していたがん遺伝子パネル検査が本院で完結できるようになりました。本院では、エキスパートパネル（多分野の専門家による会議）を毎週開催（2019年度は17回開催（検討症例数52症例））し、検査結果を基に治療方法等の検討を行っています。

また、重粒子線がん治療については、いよいよ2020年9月から前立腺がんの重粒子線照射前治療を開始しました。（重粒子線照射による治療は2021年2月から）重粒子線がん治療は、体への負担が小さく、かつがん細胞を壊す効果が極めて高い治療法です。このすばらしい治療を安全かつ確実に提供できるよう準備を進めています。

2019年度事業費:18億円



ゲノム検体の検出作業



世界3台目となる重粒子線治療用回転ガントリー（2021年8月治療開始）

山形大学基金への寄附のご案内

山形大学基金は、本学における「学生支援」及び「教育研究支援等」に資することを目的に創設しました。

経済的修学困難学生へのご支援

経済的な理由で修学に困難がある学生等に対して支援を行うことにより、意欲と能力のある学生が希望する教育を受けられるよう支援することを目的としています。具体的には、次のように活用されます。

- 入学料、授業料または寄宿料の全部または一部免除
- 修学資金の貸与または給付
- 学生の海外への留学に係る費用負担 等

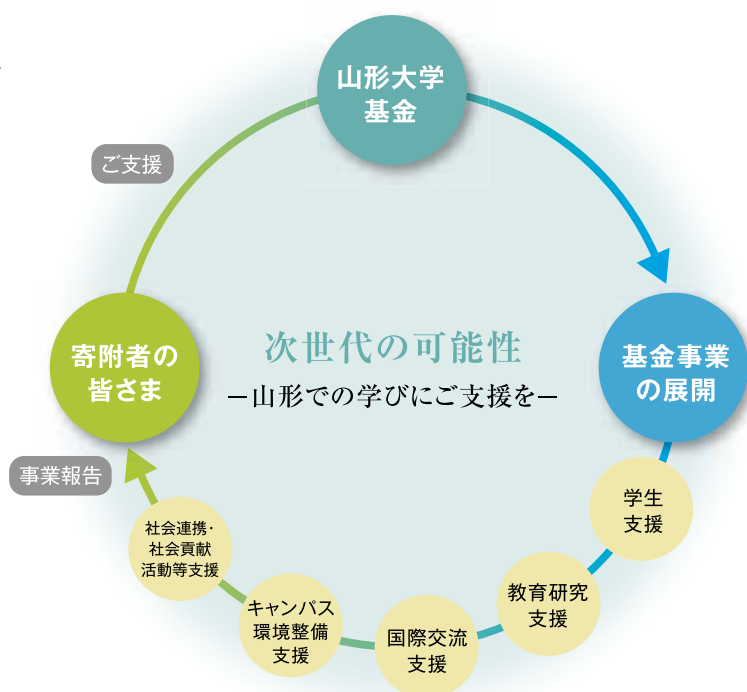
大学公認学生サークルへのご支援

小白川、飯田、米沢、鶴岡の各キャンパスにある各「大学公認学生サークル」を個別に指定してご支援いただくことができます。

山形大学運営全般へのご支援

次の支援事業を柱としております。各詳細につきましては、年度毎に諸状況を勘案しながら計画します。

- 学生支援
課外活動(団体、サークル等)、キャリア形成・就職、優秀学生への奨学金 等
- 教育研究支援
基盤教育・専門教育、学術研究推進 等
- 国際交流支援
海外留学、外国人留学生、海外大学との交流 等
- キャンパス環境整備支援
安全・安心・快適なキャンパス整備、バリアフリー対応 等
- 社会連携・社会貢献活動等支援
卒業生等との交流、ボランティア活動、地域交流・貢献活動 等
- その他基金の目的達成に必要な支援



学部等へのご支援

学部等(所属する研究室を含む)を指定してご支援いただくことができます。

なお、本支援金の一部(30%)は全学事業に充当させていただくこととしております。予めご了承のほどお願いいたします。

税制上の優遇措置

山形大学基金への寄附金は、所得税法上の寄附金控除の対象となる特定寄附金または法人税法上の全額損金算入を認められる指定寄附金として財務大臣から指定されております。

また、経済的な理由で修学に困難がある学生等に対する支援にご寄附いただく場合には、「所得控除」制度に加え『税額控除』制度が適用になりました。詳しくは、下記ホームページよりご確認ください。

お問い合わせ

山形大学基金事務室 TEL:023-628-4497 E-mail:yukikin@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
ホームページ: <https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/fund/>



小白川キャンパス 人文社会科学部、地域教育文化学部、理学部

小白川キャンパスは、「学問基盤力、実践・地域基盤力、国際基盤力」を育成する3年一貫の学士課程基盤教育のほか、人文社会科学部、地域教育文化学部、理学部の学部・大学院教育、また社会人向けの教育プログラムなどが行われており、様々な目的で学びを求める方々を受入れ、育成する基盤を整備しています。また、3つの学部が協力し合い、「明るく楽しいキャンパス」を目指し、授業改善や講義室の改修などの取り組みを行っています。

小白川キャンパスのSCITAセンターでは、これまで数多くの科学実験教室や科学振興活動を実施し、年間約1万人に実験を楽しんでいただいております。好奇心旺盛なこどもたちの不思議に感じる気持ちや工作意欲から出てくる疑問を「夏休み自由研究サポート2019」などを通じてスタッフと一緒に考えることにより、科学的思考能力を備えた将来の山形・日本を支える人材育成を目指しております。

2019年度事業費：15百万円



夏休み自由研究サポート2019の様子



イオンモール天童実験教室の様子

飯田キャンパス 医学部

山形大学医学部メディカルサイエンス推進研究所では、山形県コホート研究(Yamagata Study)推進会議において、著名な研究者による最先端医療に関する講演会及び学内の研究発表を実施しています。2019年度は国立がん研究センター、東京大学、東北大学などから研究者を迎えその開催回数は9回を数えました。講演後には活発な意見交換が行われており、教職員に研鑽の場となっています。

また、医学部附属病院は、本院を訪れる様々な人々が利用しやすく、過ごしやすい病院づくりを目指しています。2017年からリニューアルを進めてきた院内サインについては、そのわかりやすさとデザイン性が評価され、令和3年度中学校美術科教科書に掲載されることが決まりました。加えて、東北芸術工科大学とのコラボレーションにより附属病院2階にYumeアートギャラリーを開設し、院内でアートに触れることができる空間を設けました。

2019年度事業費：1百万円



Yumeアートギャラリー



山形県コホート研究推進会議の様子



大きくわかりやすい院内サイン

米沢キャンパス 工学部

米沢キャンパスでは、外部資金（民間企業等との共同研究費や、各省庁、県市町村等から交付される補助金など）を原資とした大型プロジェクトが盛んに実施されており、世界的な研究拠点の整備が進んでいます。また、その最先端の環境を活かし、実践力を育む教育活動を展開しており、次世代の新たな価値を創造する有為な人材の輩出を目指しています。

2019年度は、米沢キャンパスの旧米沢高等工業学校本館（重要文化財）前に設置されていた組積造の塀を解体、新設しました。明治の開校当時の姿を再現することで重要文化財建物本体と調和を図りました。また、本館内では毎年恒例の「重要文化財コンサート2019」を開催し、100名を超える来場者は、中世にタイムスリップした雰囲気の中、ピアノ&フルートの演奏を楽しみました。これらの取り組みにより、キャンパス内の更なる安全の確保及び旧米工本館の地域利用の活性化を図りました。

2019年度事業費：54百万円



「米沢キャンパス囲障改修」の様子



「重要文化財コンサート2019」の演奏風景

鶴岡キャンパス 農学部

鶴岡キャンパスでは、地域の特色を最大限に活かしたフィールドワークと実験を重視した教育研究を行うとともに、地域の皆様に多様な体験・学習の機会を提供しています。

2019年度も、「農場フェスティバル」（農場産米の試食やツリークライミング体験等）や子供たちを対象とした「森の学校」（花や木の実、動物の観察や積雪観察等）、「市民交流農園」（学部内の農園を開放し、農業を通じ交流を図る）を実施しました。

また、大型の寄附講座が設置されており、産業界と連携した取り組みを行っています。食料の生産から加工、販売、消費までの全てを地域内で完結できる「特色のある持続可能な循環型農村経済圏」を構築する取り組みで、その成果品の一つである「山形大学あらびきウインナー」が山形県知事賞を受賞しました。評価基準の中で「食味」「コンセプト」で高い評価を得たことは、実現に向けて大きな弾みとなりました。

2019年度事業費：34百万円



農場フェスティバル
（炊き立て新米の振る舞い）



森の学校
（演習林で雪遊び）



市民交流農園
（植物残渣を活用したたい肥づくり）



食料自給圏（スマート・テロワール）形成講座
（「山形大学あらびきウインナー」山形県知事賞受賞）

ファイナンシャルハイライト

(百万円)

	2018年度	2019年度	増減(前年比)
貸借対照表			
資産	127,101	124,346	△ 2,755
負債	56,528	54,015	△ 2,513
純資産	70,572	70,331	△ 241
損益計算書			
費用	40,908	42,351	1,442
収益	42,015	43,470	1,454
運営費交付金収益	10,849	11,455	606
授業料等収益	5,135	5,062	△ 73
附属病院収益	20,410	21,135	725
受託・寄附金等収益	2,823	3,122	299
その他	2,797	2,694	△ 103
当期総利益	1,107	1,119	12
(うち目的積立金予定額)	(702)	(660)	(△ 42)
キャッシュ・フロー計算書			
業務活動によるキャッシュ・フロー	5,799	4,386	△ 1,412
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 9,406	△ 1,361	8,044
財務活動によるキャッシュ・フロー	824	△ 1,681	△ 2,505
資金期末残高	2,881	4,225	1,343
国立大学法人等業務実施コスト計算書			
国立大学法人業務実施コスト	13,837	13,528	△ 308

注) 百万円未満を切り捨てているため、合計額が一致しない場合があります。

2019事業年度は費用423億円に対し、収益は434億円となり、**当期総利益は、11億円**となっております。

前期より微増となっておりますが、これは、国からの交付金が減っている中で、外部資金獲得の取り組み及び繰越分の執行などにより、受託・寄附金等収益が**3億円増加**し、附属病院収益においては、医療体制の強化を図ったことによる入院・外来単価及び手術件数の増加などの経営努力により、**7億円増加**したことによるものです。

なお、**当期総利益のうち6億円**については、文部科学省の承認後、目的積立金として2020年度以降の施設・環境整備事業等に充てられます。

今後も、教育・研究・診療に力を注ぎ、外部資金の獲得などによる自己収入の確保並びにより一層の経費抑制に努め、健全な財務運営を行ってまいります。

詳しくはこちらをご覧ください。

「令和元(2019)事業年度財務諸表」

https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/university/open/corporate22/corporate22_finance/



「山形大学アニュアルレポート2020資料編」 ※同規模大学との財務状況の比較や、学部・研究科等別決算情報等を開示しております。

<https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/university/open/agreement/>

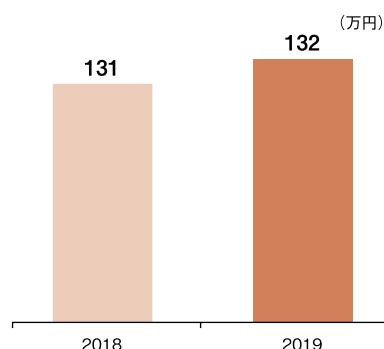


財務データ

教育関係経費

教育関係経費は、116億円です。学生1人当たりに換算すると132万円となります。教育関係施設の修繕費が増加したことなどにより、前年度より1万円増加しました。

学生1人当たりの教育関係経費※

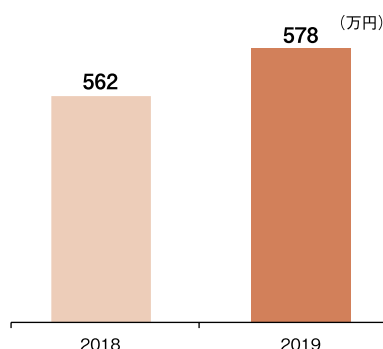


※(教育経費+教育研究支援経費+教員人件費)/学生数

研究関係経費

研究関係経費は、52億円です。教員1人当たりに換算すると578万円となります。研究関係施設の修繕費が増加した一方で、研究に係るガス料が減少したことなどにより、前年度より16万円増加しました。

教員1人当たりの研究関係経費※

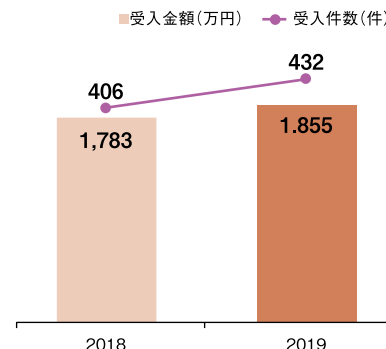


※(研究経費+受託研究費等+科学研究費補助金等/教員数)

山形大学基金

2019年度の寄附のお申し込み件数は432件で、1,855万円となり、2019年度末総保有額は2.1億円となっています。前年度を上回るご支援を賜り、感謝申し上げます。本学における学生支援及び教育研究活動等の充実を図っていきます。

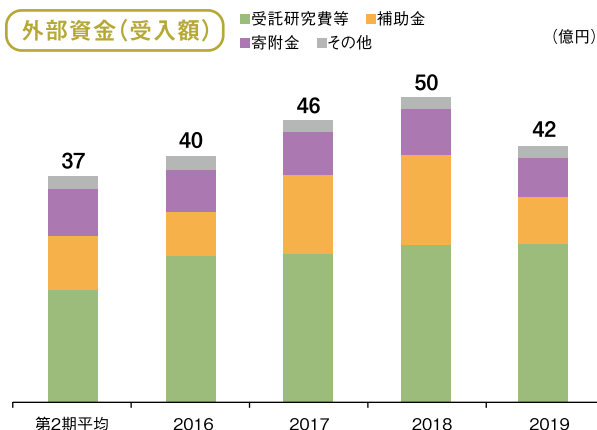
山形大学基金(受入額)



外部資金

2019年度の外部資金の収入実績は、42億円です。これは国から交付される運営費交付金等が減少傾向にある状況において、教職員の努力により外部資金を獲得した成果です。今後も教育・研究活動に支障をきたすことがないよう、継続的な外部資金の獲得及び経費抑制に努めます。

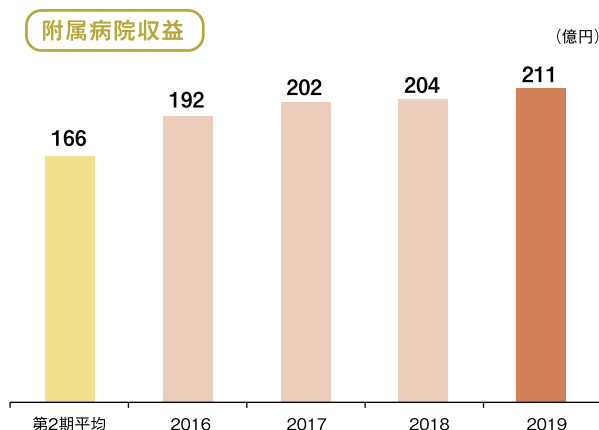
外部資金(受入額)



附属病院収益

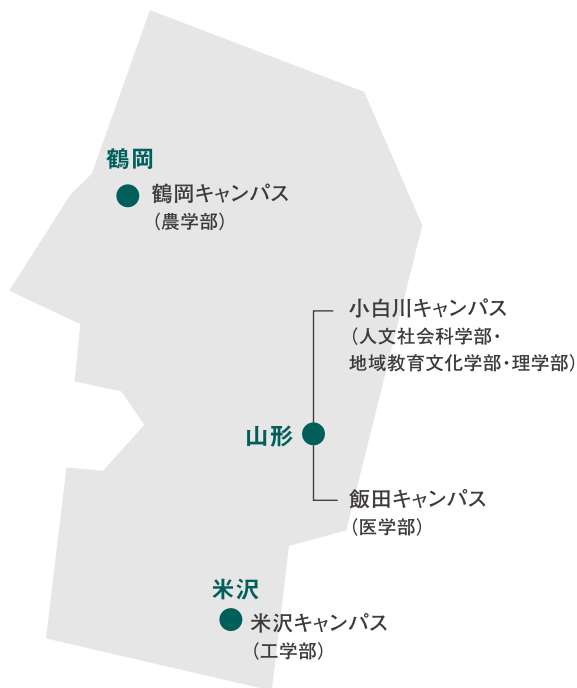
附属病院収益は211億円で、前年度より増加しましたが、収益の増加に伴い、診療経費等も増加しており、附属病院の経営が厳しい状況にあります。引き続き附属病院の使命を果たすため、経営改善に努めていきます。

附属病院収益



山形大学の1年間の運営にかかる国民一人当たりの負担額 107円

山形大学の国立大学法人等業務実施コスト 135億2,891万円÷(人口)1億2,596万人(「人口推計」(総務省統計局による2020.3現在))



山形市へのアクセス

- 仙台から山形／[電車] 約1時間15分
[高速バス] 約1時間 (約15分間隔で運行)
- 東京から山形／[飛行機] 約1時間 [新幹線] 約2時間40分
- 大阪から山形／[飛行機] 約1時間15分

山形市から各キャンパスへのアクセス

- 山形から米沢／[新幹線] 約35分 [電車] 約45分
- 山形から鶴岡／[高速バス] 約2時間



■ シンボルマークについて

山形大学のシンボルマークは、2001年に21世紀を迎え、本学の更なる発展を期し、学生と教職員の一体感を高めるに相応しいシンボルとして、公募により制定されました。教育学部4年(1998年度入学)千葉麻里子さんの作品を教育学部和田直人准教授(当時)が補作したものです。

アニュアルレポートに関するお問い合わせ窓口

国立大学法人 山形大学 企画・財務部 会計課

〒990-8560 山形県山形市小白川町一丁目4番12号
TEL:023-628-4052 FAX:023-628-4051

山形大学ホームページ <https://www.yamagata-u.ac.jp/>

